

栃木市観光基本計画 第4回策定委員会 議事要旨

日時：平成26年2月20日（木）14：00～15：10

場所：栃木市市役所3階 庁議室

出席者：別紙

開 会あいさつ

委員長あいさつ

資料説明（事務局）

委員長

最後の取りまとめをしていきますので、ご意見をお願いします。

A委員

観光客を誘致するという面では良い基本計画ができたと思います。

基本計画はこれで良いと思いますが、これから具体的に基本計画であげたアクションをどのように実行していくのかが見えにくいと感じます。例えば小江戸ブランドの販売という点では、販売拠点などどのように売っていくのかが見えてこないので明確にして欲しいと思います。

B委員

非常に良い形で基本計画がまとまったと思います。

新生オールとちぎとしての基本計画は多方面で注目されています。観光振興のベースとなる骨組みはできたので、これからは各地域で骨組みに沿った形でのイベントや観光行政を、我々も含めてやっていかなければいけないと思います。

C委員

素敵な基本計画案ができたと思います。

この計画のすべてに目を通してはいるわけではないので申し訳ないが、前回の委員会で自転車とまちの駅について質問させていただいた。まちの駅に関する記述について教えていただきたい。

D委員（代理）

何もわからない状態ですが、初めて出席させていただきました。

岩舟町では、先々日観光協会、町、JAなどに集まっただき、新たな観光協会設立に向けての会議が開かれました。

委員長

岩舟町では観光協会がこれまでなかったのでしょうか。

岩舟町観光協会 山中委員（代理）

これまでも観光協会はありましたが、他都市と異なり、民間型の協会で商工会議所等の団体が入っていませんでした。これからは商工会議所も含めた形での再構築を進めています。

E 委員

良い基本計画が策定できたと思っております。

その中でも、市町合併もありましたので、新生栃木市としてネットワークを活かした周遊観光を具現化してもらえれば良いと思います。例えば太平山と蔵の街、あるいは桜を素材として地域をつなげるなど、周遊観光モデルに非常に期待しております。

委員長

各地域の方々に一言ずつご意見をいただいたので、事務局で総括的な話をお願いします。

事務局

各観光協会の代表の皆様方からご意見いただきましてありがとうございます。

本基本計画の中でも大きな目標として基本目標2でネットワークにおいて周遊観光モデルルートの重要性を掲げておりますが、具体的なコースやルートについては盛り込んでありません。その辺りについては、なるべく早く、より具体的に来年度の4月から様々なコースやルートを設定していきたいと思っております。

ブランドについてですが、今年8品目追加され、52品目になりました。また、庁舎1階にブランドコーナーを設置することが決まりました。これらのノウハウを活かして、道の駅にしかた、プラッツおおひら、道の駅みかもなどで地域の物などを発信していきたいと考えています。

まちの駅については、おもてなしの部分で検討に値すると考えています。P.76の「個別方針⑧-2 観光まちづくりを担う人材確保と育成」の「⑧-2-2 観光ボランティアガイドの養成とスキルアップ」に事業展開例の1つとして「まちの駅制度の活用」を盛り込んでいきたいと考えています。

F 委員

基本計画についてではないのですが、具体的アクションの状況報告を定期的にしてほしいと思います。また、我々民間でも手伝える部分があるかもしれませんので、具体的アクションを起こす時にも知らせてほしいと個人的に思います。

委員長

非常に大事なことです。事務局如何でしょうか。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。検証は非常に大事なことだと思います。基本計画の推進方法の中で、早急に観光まちづくり推進会議の立ち上げを掲げています。策定委員会委員の皆様には観光振興に係わっていただいたので、これからも何らかのご意見を頂戴したいと考えております。どれくらいの頻度で皆様にご報告できるか、現時点では申し上

げられませんが、報告の場は継続していきたいと考えております。

A委員

栃木市も観光連絡協議会が立ち上げられましたが、1回開催されただけで立ち消えてしまいました。観光協会としても意見を言う場が無い状況です。まさに、何らかの形で観光振興をフォローする組織を立ち上げてほしいと思います。

委員長

今までお客を呼び込んでいない地域において、誘客しようと動き出しても結果持たないケースが多いです。まずは、各地域での地域活動を生活の中で楽しむことです。楽しみながら地域活動が活発化すると、外から見ると素晴らしく魅力的な絵に映ってきます。それぞれのエリアでの地域活動もでてきていますので、今お話ししたことと観光誘客をつなげていくことが大事だと思います。

G委員

事務局のお話の中でもおもてなしとありましたが、自分にできることは何かと考え、巴波川沿いを歩く観光客に挨拶をしています。栃木市の場合は交流人口を増やすことが重要であり、観光客に気持ち良さを感じていただくことが重要だと思います。そのためには、一般の市民が観光客に感謝の気持ちを持つように、おもてなしの教育が必要だと思います。

委員長

こういった考えが委員会からではなく、一般市民から話が出てくるようになることを目指しているということをお聞きした記憶があります。

あとは、誘客のご協力をいただく立場からのご意見をお願いします。

H委員

鉄道としては、電車で栃木市に来ていただくようにワーキンググループをつくり、「駅長と歩くハイキング」など色々な施策を考えております。3月には渡良瀬遊水地でのハイキングを予定しております。また、今年は3週間期間限定の栃木市のハイキングを行います。今後も、1人でも多くの観光客に来ていただけるよう計画を立てていきたいと思っております。

委員長

一日限りではなく、3週間と期間が延び、みんなで迎える体制ができていることは素晴らしいと思います。

I委員

お客様と観光地に出向くこともあり、気づいたことがあります。観光客としては合併した都市としての意識はないということがわかりました。先程各地区の委員さんのお話でもありましたが、市域一体となって、1つのラインで売っていかうということは非常に素晴らしいことだと思います。そして、「栃木市はこれだ」という、1つ強い売りがあると相乗効果として他の地区にも広がっていくと感じていますので、何か1つ強いものができることを期待しております。

委員長

時間も限られておりますので、何かご意見がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは私の方からコメントを入れさせていただきます。

合併後の悩みとしてあるものが、旧市町の枠がなかなか消えないということです。先程お話がありましたが、観光客や外部から見れば栃木市は1つだということです。地域の中で頑張ってください、光るものをそれぞれ出して、それらを1つにまとめるものが、このマスタープランだと思います。

基本目標の中のマネジメントの部分は、今後市役所の力量が見られてしまう部分です。温度差や力量が違う各地域を総合的にマネジメントする力量が市に求められます。これだけ広い地域で1つになってやろうということは大変なことであり、魂を込めてやらなければならないことです。

この計画の素晴らしい所は、漠然とした計画が多い中、旧市町の枠組みの中で整理すべき事項やポイントとなる入口が整理されているところです。今後は、各地域に戻して、各地区のリーダーと総合マネジメントの力量を上手く組み合わせしていくことだと思います。また、栃木市全体を見る地域プロデューサーの育成が必要になると思います。

スタートアップ事業についてですが、観光というと何か新しいことをやらなければいけないと思われがちですが、現状で出来ることは山ほどあります。データ整理や周遊ルートなどそれぞれ計画の中に整理されています。すぐできることと、時間をかけてじっくりやることを、しっかり整理することが大切だと思います。

事務局

ありがとうございました。

引き続き先生には講演をお願いします。

講演 『今、栃木市が行わなくてはならない課題とは～人が動くと、物が動いて、お金が動く～』（篠原委員長）

閉会あいさつ